

新年初刊の時事新報

の大新聞

を發行し且つ當日添へて頒布する

新年附録は海軍書籍の筆者たる若林海軍大尉の國策論中に見る淺井忠氏の提案に成れる。帝國軍艦富士、八嶋の間に於て、海軍の海上三艘の高日章艦を橋頭に掲げ、船橋相街んで進行する處、威風凛然海軍人士の理想を表現して、艦隊の雄姿は縦一尺五寸横二尺十餘度摺りの精巧美麗なる着色石版畫なり而して月極の購讀者には之を無料進呈し當日の時事新報に限り購讀者を望む諸彦に對しては本紙附録合せて金十錢を以て請に贈るべし右に付當日の時事新報は印刷高平日に倍返し廣告の効力も非常なるを以て廣告依頼者特に多し依て當十二月二十八日迄に申込まざる廣告依頼者に對しては不本意ながら當日の紙面に掲載方を斷る事あるべし。

馬關門司を開く可し

馬關門司の兩港は東西往來の要路に當り西部地方の大市場なれば貨物の出入も少なからず現に昨年中馬關の輸出入合計は二千二百三十餘萬圓に達し横濱神戸に次ぐの繁華を示したり隨て船舶の往來も頻繁にして同年中西洋船舶の出入せしもの七千六百餘隻、和船は殆んど二十萬艘に及びしと云ふ以て其商業上の地位如何を察するに足る可し左れば其商港に於ても明治十六年には之を以て朝鮮貿易港と爲し次で明治二十二年には米外四品の特別輸出港として兩港を擴張したる次第にして更に一步を進めて特別輸出入港ならしめれば貿易上の便利は一層大なる可しとて兩港の有志者は先づ此議を提出せしに他諸港の有志者も競ふて同様の事を其筋に請願し互に協力したる結果空しくならず議會は右に關する法律を議定して場所の擴張は政府に一任したり而して當局者之を擴張するや兩港の如きは無論第一にあらんと思ひの外却て其擴張に洩れたるも不審なれ今その内情を問ふに兩港は國防上の要地にして外國船の出入を許す可らず然るに之を擴張し輸出入港とせば他日新條約實施の際には外國船をも自由に出入せしめざる可らずと云ふに在るよし一應尤もなるが如くされども抑も國防とは何の意味なるかと考へざる可らず國の命脈は主として貿易商賣に依て維持せらるるものにして文明國民の熱血を注いで守る所のものは商賣の利益に在り戰争の機運も多きは商賣を擧げらるが爲めにして擴張せんとする國交の際に擴張せらるるも亦貿易の害せられんことを恐るゝに因るよし多し左れば軍備の目的は商賣の保護に在るものと明白にして砲臺を築くも軍艦を作るも目的は唯この邊に在るのみ若しも軍備の爲めには商賣を犠牲にするも可なりとの説もあらんか是れは事の本末を忘れたるものにして軍備は商人を保護するに其首が第一なりとて斬て殺すが如し軍備の爲めには事や可し或は一歩を譲りて軍備の爲めに兩港を擴張する可しと云ふも軍備の爲めには事や可し或は一歩を譲りて軍備の爲めに兩港を擴張する可しと云ふも軍備の爲めには事や可し或は一歩を譲りて軍備の爲めに兩港を擴張する可しと云ふも

上海特報

十二月一日

蘇州居留地問題 通過珍田總領事居留地問題の用務を帯びて蘇州に向ひし事は余の通報したる處なりしが今余の探聞する所によれば初め居留地を蘇州外青楊地一帶と定むるや我政府の意思は寧ろ支那人と相近接するにありて是非とも蘇州外に居留地を得んと懸念したるよしなれども其間には種々の障礙ありて結局地域は先づ蘇州外と略一定したるも借て行政警察の權を清國政府に於て掌握せんとする南洋大臣の意見が端なくも北京に於ける談判の一問題となり容易に決せざりしかば我政府より居留地問題を懸念し其の行司は之れに應ぜず遂に今日及びしなれども今や我政府は居留地の専管權を得たる事なれば此點に於ける彼政府の障礙も既に消滅したれば借を今回は彼れより速かに居留地問題を決せんことを申出でたれば珍田總領事は直に蘇州に向ひし事なりと云ふ故に其地區の如きは既に蘇州外青楊地一帶と確定したりと云ふを得べく今は其擴張に地所の價格を決定すれば蘇州居留地問題も結局を告ぐる事なりと云ふ而して先便余は英領事官が密渡橋附近に於て各居留地の地域を定めたる由を報じたるが右は密渡橋より日本居留地に至るの間にして若し其居留地にして擴張を告ぐるの圖には蘇州江に沿ふて其地所を擴張する見込にして蘇州新稅關は密渡橋傍に新築するものなりと云ふ而して英領事官が懸念する等二百五十弗等五百五十弗なりと云へば我珍田總領事は談

到も亦其邊にあるべし因に云ふ我大東新利洋行が蘇州外太子碼頭に借家するに臨み清國官吏は亂暴にも其雇人を捕縛したることは當時余の報道したる所なりしが右は屬々我領事より其釋放を求むるも彼れにありては日實を設くるの後にあらざれば妙ならざるが故に今は只速かに蘇州の居留地を定む大東新利洋行をして其居留地内に轉居せしめ之れを口實として雇人等を解放せんとする計畫なりと云ふ左れば今回居留地問題を彼れより申出でたるが如きも或は斯る原因に依るもどめらざるやと云ふものあり兎に角同問題昨今の経過は此の如くなれば其決定の際に至るも余の此報道と大差なかるべく斯くて大商工業に従事すべからざる地に而かも支那人と相去りて我居留地を設け以て今後の繁榮を期せんとす余は寧ろ策の愚なるを唱へずんばあらず因に云ふ蘇州新稅關設立後一ヶ月の収入は我大東新利洋行が納めたる四圓五十錢のみにして今度荒井氏が蘇州に我雜貨店を開設するに臨み納めたる四圓五十錢は實に其第二の収入なりと云ふ

大東新利洋行が蘇州航路を開設したる後更に杭州に新航路を開かんとする計畫なるも既に既報したる處なるが去月初旬汽船飛祥號を以て其第一航を試みたれども右は只其試航に過ぎずして未だ航路を開設したる譯にはあらず尙愈之れを開設する際は更に三四艘の小汽船を買入れざるべからざるよしにして昨今行主白岩氏は之れに用ふべき小汽船は我内地製のものを用ひんと計畫しつゝありと云へば我内地新聞の報するが如く既に日々航路通しつゝありと云ふが如きは虚報なりとす

英米公使更迭談 英國駐在公使龔德氏病を以て辭職補遺黃道憲氏之れに代らんるとは既に既報したる所なるが右は愈々事實なるが如く而して米國公使楊儒氏に代りて當地の署理道董呂鏡宇氏が新任せらるべきよしを前報せしが昨今に至りて羅豐祿氏之れに代るべしと云ひ而して龔公使許竹簾に代りて伍廷芳氏新任せらるべしと云ふ實は嘗て日本にありて參贊官となり後我珍田總領事と居留地問題を議する際委員の一人たりし者にして洋務に熟せりと稱せられ羅伍二氏は共に嘗て西に學び李翁門下の幕僚として有名にして李が當世の事を斷するに當りてや二氏の力實に大なりしなり而して羅氏は今回李翁に従ふて歐米を周遊し伍氏は張蔭桓氏を助けて共に我林全權と共に條約の訂結に協力したる人にして共に清國有爲の人物なりとす故に若し二氏にして去らば李翁の勢力に多少の影響あるべしと雖も若し此説にして真なりとすれば公使其人を得たるものとて清國の爲めに賀せざるを得ず又英國駐在公使の職務は世襲傳習書記傳の場曾侯爵は此程詰明し當地に來着せり或は龔公使の病狀を聽さんか爲めの使者にはあらざるかと云ふものあり

廣東省の二氏は此頃廣東省に關する復讐を爲したる右翁翁は夫は廣東省に關する復讐の由所を知るに足るを以て大東新利洋行を創設するよしとせり其路に云ふ廣東省一千八百九日臣王文韶の調議廣東省の復讐の由を尋ねて率率關道盛宣懷を召し出さんか爲めの使者として見らるべしと云ふものあり使て

談するに此經費萬兩を支出し七萬兩は之を米國は臣等自ら籌辦の意に對へんとす存のものに係り當に其集すべし公司より借入るべき以て盛宣懷方に官金を支出するにあり且つ儲蓄する處なれば其の要なし其道等盛宣懷と相議其資金二千兩一千兩は南北鐵政廠所製の鋼師の言に依りて其功を奏し得盛宣懷 當代の發覺して大は李君の意に依りて朝廷の儲蓄も日出補せられ得べきに來り鐵道公司に彼れは其所信し銀行を開設して鐵道は尙さを得て之を設けに設け各國の語致へん其經費の者其功を發りてと云ふ彼嘗て兵隊を引んと云へば兵隊は引んと云ふ其資本金は了し後二十二年二割の算に四分を積立金として既に外國に向つて設立するものとす神尾中佐の出陣神尾中佐は佐は京の途に就けりといふの南洋の事なりと云ふものあり使て